

南牧村小中学校建設検討委員会 保護者説明会 発言録

日時 平成29年11月10日(金曜日)午後6時30分開会

場所 中央公民館

会議日程

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 事務局説明
- 4 質疑・意見
- 5 その他
- 6 閉 会

会議出席委員

井出 松久 菊池今朝造 新海 昇 片桐 勝則 高見澤 正洋 井出 邦彦
高見澤 みち子 高見澤 ふみ子 矢野 勝彦 井出 昭彦 高見澤 眞 高見澤 美夏
上村 和加子 今井 澄江 井出 永一 高見澤 俊彰 井出 泉 林 崇介 渡邊 壽美
以上19名
欠席28名 嶋崎 稔夫 高見澤 俊彦 新海 文人 水澤 良光 武井 晃 井出 将光
薩田 美穂 新海 一禎 輿水 昌代 天川 千保香 松山 幸代 湯浅 麗 岡田 加佳
江川 尚友 井出 正吉 新海 勝則 菊池 武元 新海 秀幸 坪井 則男
渡邊 忠一郎 菊池 俊志 輿石 剛 宮下 博満 湯浅 夏美 高見澤 臣美
板山 笑子 嶋崎 一尚 井出 實

事務局職員出席者

総務課 なし

教育委員会 教育長 井出 英夫 教育次長 井出 浩美 学校教育係長 井出 一生
今井 征弥

保護者出席者数

南小区 2名
北小区 9名 計11名

開会 午後6時30分

◎開会

林崇介副会長 開会を宣言する

◎会長あいさつ

渡邊壽美会長 あいさつ

◎事務局説明

事務局井出次長 資料説明

◎質議・意見

保護者松山氏 昼間の説明会に委員である家内が出席した。家内が小中一貫校についてよく分からないからと質問した。答えでは、学校づくり委員会が村長の諮問を受けて、小中一貫だと答申したと説明された。それは答えになっていない。村長は、いつどこで決めたのか。議会に諮って正式に決定したことでない。何回かの委員会で発言すると、あとの問題については建設地が決まってからだと教育長が答弁している。村長は、この委員会で建設予定地を決めてくれと言われたそうだが、小中一貫にすると正式に決まっていない段階で、建設ありきの話だ。そこが一番の疑問点だと思う。説明をお願いします。

井出教育長 村長は答申を受けて、この答申を尊重すると議会にも説明している。小中一貫にするのは議決要件ではない。ご理解を。

保護者松山氏 学校をどこに建てるか決めるのは村長。その村長が答申を尊重するのは結構だが、村民の合意形成は必要ではないか。学校づくり委員会が答申しただけで、住民は内容を全然わかっていない。学校の問題は保護者だけの問題ではない。地域で子どもを育てるというが、平沢では朝早くスクールバスに乗って、帰りも遅くバスで帰ってくる。いっとうやって住民と接するのか。文科省の小中一貫校の手引きの中には、まずどういう教育をするのかというのが一番の大前提で、それに対してカリキュラムの作成とかを進めるとある。学校の統廃合と職員の人員減らしがあってはならないと書いてある。3つの学校を1つにすることは、2つ減らすということだ。佐々木さんの言うとおりの小中一貫には施設一体型と分離型の方式があって、分離型ではそれぞれの学校に校長も職員もいる。そうすると新しい学校を建設する必要がない。北小、南小、中学校で別々の今まで通りで小中一貫ができる。南小の小学校1年生は40分以上バスに乗って来ている。文科省は、通学時間1時間まではと言っているが、実際に小学校1年生が朝早く30分バスに乗るのは絶対に問題がある。ましてや平沢の一番奥からスクールバスで通っているのに、中学生も一緒にここまで来るとなれば、すごいことだ。学校が無くなるわけだから、学校は地域コミュニティの中心だと言っているが、それを全村型で、みんなで学校を支えようというのは理想だが、今、平沢の年寄りは何れがどこの子か知らない。それでいてどうして地域とのつながりができるのか。どうして新しい学校の建設にこだわるのか。建設ありきで検討委員会も進めているが、学校が無くなる地域住民は納得しているのか。

井出教育長 それについては昨年の学校づくり委員会の中でも十分議論してきている。そ

うやって合意形成を図っていくものであるのご理解いただきたい。個々には松山さんのような意見もあるだろう。

保護者松山氏 教育長は、合意形成ができていると判断しているのか。

井出教育長 昨年の各界の方々には承知いただいていると思っている。

渡邊会長 昨年は、専門部会でも4回協議している。12月には結論が出たので、それだけの討論はしてきたつもりだ。松山さんの意見は承ったので、他の方の意見をお願いする。

井出永一 委員 南牧保育園の保護者会で寄せられた意見を発表する。この委員会での内容を保護者会で伝えてきた中で出された意見は、中学校周辺での建設を望むということ。理由は、通学時間が一番問題になっているが、南牧保育園では長い子は30分から40分かけて通っている。バスを増やせば解決するが運転手の確保が大変であり、中学校に建設すればJRで通う選択肢もある。JRを使わない子供は、なるべく細かく停まるようにしながらも長時間にならないようにすればいい。教員配置では、南小は若い先生が多い傾向があると聞くが、北小、中学校はそうでないという。そこに不安や心配である保護者がいる。南小の周りは畑なので、農薬散布の影響が心配される。以上から中学校周辺に建設するのがベターである。今後の委員会での検討を願う。

井出泉 委員 昼間の説明会で分校の話が出たが、昭和53年までは北小と中学校が向かい合っていた。中央に体育館と給食室があった。児童生徒数はそれぞれ200人居たので、同じことができると気がついた。当時と同じ大きさはいらないので、南小は段差があって大変だが、北小は平坦地で、湊地区のように用地買収の必要がない。今ある場所に建てればいい。役場、郵便局、駐在所、駅が近い。他校との交流にも近い。湊地区はハザードマップに洪水の危険があるとある。中央公民館の児童クラブは使い勝手が悪いからストローハットの裏に小さい建物でいいからと先生たちが教育委員会にお願いに行ったら、沼地に建物ができるのかと門前払いを受けたそう。児童クラブができないのに学校ができるのかと怒られた。候補からは外れているが北小のがやりやすいと思った。住民説明は、ある程度決まってから行うというが、南小に作ると発表した時点で、海尻海ノ口の保護者が諸手を挙げて賛成するとは考えられない。北小に作るとすれば、平沢野辺山が分かりましたと言わない。市場坂を挟んで南北に分かれている地域なので意見が割れるのはしょうがない。委員会で進めるごとに住民との差が開く気がする。早めに住民説明をしてある程度の方向性を決めたほうがいい。反対署名を出されたら収拾がつかなくなる。その前にある程度の説明をした方がいい。

渡邊会長 意見は十分に承りたい。

保護者大村氏 北か南かという話になっているが、どういう教育をしたいのかを踏まえた上で、上に作るなら下にはこういう対策をします、下に作るなら上にこういう対策をしますというプランを提案して、どちらがいいか選んでもらう。ただ説明するだけでなく、こうしたらこの先はこうだと説明しながら進めて欲しい。

保護者松山氏 10年ほど前に小学校統合が問題になった時、北小がいい、南小がいいとの

議論があった。こんなに広い地域で、子どもが減ったから統合する、学校を1つにするというのが本当の対応なのか。この10年、村は子どもを増やすために何かやったのか。Uターン、Iターンを促進する、移住を募集するとか、何とか子どもの数を増やすことをやっていれば、最低規模必要だという人数の確保はできたはず。複式学級にするとか学校を残すやり方があるはず。学校の統廃合は、町村合併とリンクしている。合併しないと決めた時から子どもの減少は分かっていること。最終的には、小海、川上に統合して通うことになっていく。南牧村は独自に子どもの教育をしていくんだとあればこの問題は起こらない。10年前の統合と同じで、こんな広い村で一か所に集めてやるのは絶対に無理。

保護者佐々木氏 昨年、学校づくり委員として小中一貫の勉強をした。小中一貫教育のメリットは、9年間、柔軟なカリキュラムが組めるということ。乗り入れ授業も含めて特色あるカリキュラムが組めて、いい教育ができる可能性を秘めている。そこに期待している。分離型は、田舎では適さない、現実的ではないという説明だが、分離型を検討する意味があると思っている。子供の成長過程は、最初は限られた中で暮らし、成長するに従って範囲を広げていくもの。本来は歩いて通えるところに学校があるのが理想。北小、南小は地域に必要なもの。低学年生が遠くまで通うのは子どもも不安があるだろう。自分も不安だ。今の学区が安心して送り出せるもの。1年生から3年生は低学年分校として北小か南小を残されたい。保護者は安心できる。ふるさと学習に力を入れたいと言っているが、5つの村が一つになって南牧村になったのでそれぞれ違う歴史文化がある。低学年では地域性を知る。分離型を選択肢として欲しい。北小区の方の思いを聞きたいのと、分離型がいいという意見を聞いて欲しい。

保護者井出氏 中学校の部活動は村外校と一緒にやっている現状がある。他校との行き来や夏休みの活動とか子ども達が自由に活動ができることを考えると駅の側がいい。広い範囲で考えることも必要。

保護者松山氏 3年生までの分校だと小4ギャップが生まれる。歩いて通えるのがいいとなると平沢分校、広瀬分校が必要。

保護者井出氏 小学校での1年生から6年生までの関わりやコミュニケーションは非常に大事なことでと考えて欲しい。

保護者佐々木氏 学校施設が増えると職員も増える。村は教員の人件費を削減する目的でやらないほうがいい。子どもの教育のための予算確保はしっかり取ってほしい。

保護者高見澤氏 子どもが北小の7名のクラスにいるが、小学校では他学年との関わりが大事で、広い世界になった印象を持っている。保育園では手厚いことにありがたさがあったが、年齢が上がると、いつも同じメンバーの中での物足りなさ、走っても勉強でも同じ順番になってしまうと、子ども達の中で安心はあっても、これからの社会性を考えると心配である。低学年時に家の近くに通えるのは望ましいが、大勢の中にもいさせたいという矛盾も感じる。個人的な意見よりも子ども達の将来を見据えて、どう育ってほ

しいか。村で育ち、村に貢献することも大事だが、日本や世界を見た上で村を思うには、たくさんの人と接し学んでほしい。学校は老朽化しているので、建設が望ましいと考える。どんないい施設であっても教える先生が重要で、今の北小は先生に支えられている。先生の経験や特別支援の環境などソフト面での確保が大事。長野県の東端の村であり、佐久市中心の中で南佐久でどれだけ教員を確保できるのか。南佐久のさらに南の村で、経験豊かな先生がどれだけ来れるのかが大変大きいことだと感じる。

井出教育長 各地を異動してくる教職員は、南牧村の子ども達は少人数でのメリットもあるが、コミュニケーション力が低いと感じている。三校では、どうやってコミュニケーション力を育成していくかという検討を始めたところである。教員配置の課題は、南牧村だけでなく長野県内、山間地の共通の悩みとなっている。中堅クラスの家庭を持った先生は、遠隔地に通う、単身赴任するのは厳しいものがある。長野県の教育長との懇談でも出している。

渡邊会長 資料の 34 ページでも教育課題に触れている。教員配置の問題も以前とは変わってきていると思われる。他に意見がないので、閉会としたい。

◎閉会の宣告

林副会長 開会を宣言する

閉会 午後 8 時 3 0 分